

令和2年度 第3回海老名市下水道運営審議会 会議録

〔令和2年12月17日（木）10時から〕

【質疑応答】

- 委員**：点検方針の中に伏せ越し部は5年1回とあるが、P8の図面上、幹線と枝線は分かるが、伏せ越し部の場所はどこか。また市内に何箇所あるか。
- 事務局**：P8のイメージ図に伏せ越し部の記載はない。伏せ越し部は市内に6箇所あり、（旧）自動車部品工業付近、海老名水道営業所付近、コカ・コーラの東側付近、県道横浜伊勢原線と県道相模原茅ヶ崎線の交差点付近、国分コミュニティセンター付近、今泉小学校付近に1箇所ずつ布設されている。
- 事務局**：下水道は水道と異なり、水の流れを自然の流下で流していく構造となっている。伏せ越し部については、先程、お話しした永池川のような場所で、河川の高さと下水道の本管の位置が重なってしまう場合に交差することができないので、河川の下を潜る様な構造となっている。
- P2に伏せ越し部のイメージ図を記載しているが、図のように、下水道管が河川の下を潜って流れる部分については、構造上、常に汚水が底流している状態になるため、汚水の中に含まれている不要なものが溜まり、その中の硫化水素という物質が下水道管を腐食させてしまうので、定期的に清掃を行わなければならない。
- 委員**：P3の写真のような状態にならないよう、積極的に維持管理を行っていかないといけない。下水道はライフラインなので、このような状態になってしまうのは非常に危ないと思っている。今回、令和2年の調査結果となっているが、これまでの調査の中で、今回記載しているような状態よりも、もっと実際ひどい状態のところがあったのではないか。そういう部分も教えてもらえると、市民も、維持するための工事を積極的に行ってほしいという意識を持つのではないか。
- 事務局**：ストックマネジメント計画に基づくカメラ調査については、平成30年度より実施している。基本的には、ひび割れ、侵入水、石灰付着が見られている。とくに石灰付着については、資料の写真よりも大きな付着が見られているところもある。
- 委員**：過去の災害時に、下水道管が崩れたりしている被害があった際の写真や資料等があれば、市民からむしろ遅いと思われるかもしれないが、納得を得られるのではないか。
- 事務局**：P2で説明させていただいたような国内で発生している下水道施設の破損等の大きな劣化は海老名市内では見られなかった。
- 委員**：安心した。

会 長：P2の国内のような道路陥没等の状況が海老名市内でも発生してしまっているのは、大変なことで、そのような状態に今後にならないよう、今回、下水道使用料の見直しを行い、計画的な維持管理をしていただくということと思われる。

事務局：今後、広報等を通じて市民に下水道使用料の料金改定と合わせて、こういった下水道施設の状況を市民へ周知していく。

委 員：カメラ調査について、市独自で行っているのか、それとも委託で行ったのか。

事務局：調査事業については、業者へ委託している。

委 員：災害時の下水道管の閉塞状況は、こういったカメラで調査するのか、もしくは別の方法で調査しているのか。

事務局：災害時の概要の想定の中では、道路等の他のライフラインと合わせて下水道の工事業者と協力をし、1週間程度で調査をしていく。その際、場合によっては、カメラ調査を行う場合もある。

委 員：道路陥没の原因として、下水道管の漏水と思われるが、カメラ調査で下水道管の中を確認した際に、漏水の状況というのは把握できるのか。

事務局：地震時、マンホールといわれる部分が液状化を伴って、上にボンッと浮いてしまう映像を報道等でご覧いただいたことがあると思うが、そうならないよう、工事をする際はマンホールと管渠の接続部分にゴムをつけて、多少の動きはあってもマンホールは外れないような構造にし、対応している。
地盤沈下については、基本的に下水道本管が崩れてしまうと、そこから土砂、地下水が流入し、結果的には地盤沈下につながっていくが、市内では現状そのような下水管が原因となった地盤沈下は起きていない。今後、適切な維持管理を行っていく。

事務局：先程ご質問のあった侵入水については、カメラの動画より、下水道管を沿って水が流れている様子が確認できる。

委 員：ストックマネジメント計画の実施サイクルの中で、「評価・見直し」とあるが、実際にはどのようなことを行っているのか。

事務局：P8の点検・修繕計画に対する計画自体の見直しを行っている。

委 員：工事自体の評価・見直しではないということでしょうか。

事務局：その通りである。

委員：P16の改定に向けての現状での最短スケジュールについて、コロナ禍ということもあるので、水を多く使用するような飲食店、クリーニング店等に対して、なんらかの形で考慮したほうがよいのではないかと。

事務局：時期等を含めて、検討させていただく。

【各委員からの意見】

委員：前回、私から提案させていただいたが、企業として、全体的な市民として、安全安心ということを中心に、私が一番注目しているのは、ストックマネジメント計画である。この計画のサイクルで経緯・経過・現状・今後のマネジメントがどうなるか。このサイクルで現代、過去、未来、全てサイクル化して行って、安心安全を達成する必要がある。その中には、費用対効果も含まれている。今のところ一番効果的に効率よく維持管理してきていると感じる。改定率については、現状の維持管理が今後継続できるような最低限の10%は致し方無いと思われる。コロナの感染拡大で非常に影響を受けている事業者、また個人の収入も減ってきている方が多いと思われるが、増えている方もおられる中で、両者に納得のいく説明をしていただければと思う。料金の改定について賛成したい。

委員：10%の改定について賛成である。改定率についても賛成であるが、改定の時期について、現状のスケジュールのまま進めていながら、状況を見ながら随時進めていただきたい。

委員：今回審議会に参加させていただいて、改定の必要性は十分理解できた。ただ、去年の今頃はコロナ感染拡大の現状を全く予想していなかった。よって改定率10%の改定については賛成であるが、予期せぬ状況に対応するためにも時期については、考慮したほうがよい。どうしても、現状のスケジュールで改定をするのであれば、先延ばしにした場合には、より維持管理等の費用がかかってしまうという市民への丁寧な説明が必要と思われる。

委員：改定率10%の改定については仕方ないと思う。ただ他委員からも意見があったとおり、コロナ禍ということもあるので、時期については、どうにか配慮してほしい。

委員：今回の審議会の様々な資料を見て、10%の改定は最低限必要であると思う。このコロナ禍に対しての値上げは配慮するべきとも思うが、老朽化というのは進んでいくものなので、改定する方向で、市民へよく説明をしながら、進めたほうがよい。

委員：改定案に関しては、10%値上げということに賛成する。改定案については初回から注文をつけさせていただき、少なくとも未収金の話や、他市町村との金額の比較について、納得できるような資料を出していただいたこと感謝する。あと、ストックマネジメント計画については素晴らしいと思う。これは計画どおりにいけば半額になる可能性が高いのではないかと。欲を言えば、管の取り換えを例えば50m間隔で行っていると

ころを 10%増やしたら、どのくらいの経費が削減できるのかというところもつきつめていっていただければと思う。それと管の材質について、今はコンクリートか。コンクリートが最適かどうか分からないが、新素材への置き換えのようなこともつきつめていけば、この計画どおり、あるいはもっと下がる可能性もあるのではないかと期待している。

委員：10%の改定については賛成する。今回の追加資料で、他の委員も仰っていたがストックマネジメントで、これだけ経費が削減できるというのは、説明するのにインパクトがあると思う。

あと、平成 20 年度から見直しをされていて、海老名市は値上げしていないので十数年ぶりの値上げは仕方ないと思うし、今あげなければより費用がかかるということで、このストックマネジメントのやり方には大賛成である。

また、先ほどから意見で出ているコロナの関係について、飲食店関係、大企業の経常利益が赤字のところもあるので、特に小さな飲食店については本当に切羽詰まって影響しているところもあるので、そのあたりを猶予してあげるのはどうか。一般家庭の私たちが外に出ないことで、家で下水道をたくさん使っているといわれると、それも難しいところだが、来年の1月の答申に一言加えたほうがいいと思う。

副会長：10%の改定については異論ない。下水道事業は、コロナ禍であっても独立採算で経営しなければならないということは、民間企業と変わらない大変さがあると思う。しかしながら、公的機関でもあるので、市民、市内企業の状況も勘案する必要もある。